

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1学年1～8組 選択者
教科書	MOUSA①(教育芸術社)	副教材等	MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽 音楽通論 ほか

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。
 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
 (3) 主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	オリエンテーション	「芸術とは」 「人間と音楽について」	自己紹介(自己表現)をしながら互いに顔合わせをし、雰囲気作りとともに、年間の学習内容や評価方法、授業への心構えなどを理解します。	行動観察 アンケート
	5	歌唱(独唱)	「発声の仕組みと腹式呼吸」 「日本や世界の芸術歌曲」	校歌のほか、教科書の中から日本歌曲・イタリアカンツォーネ・ドイツリート・フランスシャンソン等の芸術歌曲について学び、歌います。	ワークシート ノート(鑑賞の記録) 行動観察
	6	音楽理論	楽典基礎 音楽史	音名と音部記号、音符の種類と長さ、音楽用語(楽語)等の基本的なことを押さえ、実技とリンクさせながら学習します。	伊音名速読ペーパーテスト他
	7	1学期のまとめ	歌唱発表会	演奏会形式の公開授業で歌唱の発表と相互審査をします。コメントカードで講評やアドバイスを交換しあいます。 1学期に学習した内容の確認をします。	実技試験 筆記試験
第2学期	9	器楽(アンサンブル)	ミュージックベル	ハンドベルについて歴史や楽器の構造、基本奏法を学んだ後、音階基礎練習を経て、グループ決め～選曲～練習～発表演奏会まで、グループ別に活動します。	練習の取り組み状況 活動観察 実技試験
	10	音楽理論	和音とコードネーム	DoReMi→ハニホ→CDEのように音名を変換し、楽曲に出てくるハーモニーやコードネームについて学習します。	英米語版音名速読ペーパーテスト他
	11	器楽(クラシックギター)	ギターについて 独奏(アルペジオによる簡単な伴奏程度まで)	楽器の種類、各部名称、構造、材質、歴史、取り扱い、姿勢、チューニング(調弦)、基本奏法、フィンガリング(指使い)、スケール(音階)、アルペジオ(分散和音)、コード(和声・和音記号)と次第に発展させながら曲の練習をします。 ギターコンチェルト(協奏曲)をはじめ、ギターに関連した楽曲を鑑賞します。	練習の取り組み状況 実技試験 ノート(鑑賞の記録)
	12				

月	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	器楽(クラシックギター)	独奏→重奏や合奏へ	練習曲、いろいろな奏法、簡単な独奏曲やアンサンブル演奏発表なども出来るよう、引き続き練習します。	練習の取り組み状況・活動観察 実技試験または発表
	2 3	鑑賞(および歌唱)	劇音楽(ミュージカルまたはオペラ)	歌劇を鑑賞し、内容や時代背景などを理解したうえで、劇中の有名なアリアやミュージカルナンバーを歌い、作品に親しみます。	行動観察 ワークシート分析 または小テスト
※通年	※通年	ピアノに親しむ ソルフェージュ 鑑賞および創作	号令のピアノ音階発声練習 参考演奏や編曲	輪番で開始終了の和音 I → V7 → I を弾く。 読譜聴音等、継続訓練しながら実力を養う。 教材や内容に関連して適宜選び、学習する。	行動観察 活動観察 提出作品等分析

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を表現しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ

確かな学力を身につけるためのアドバイス
<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校では「芸術」として音楽をとらえ、より深く専門的に音楽を追究していきます。 ・授業では実技と理論を関連づけながら演習と講義をバランスよく展開出来たらと思います。 ・文字通り“音を楽しむ”ことを目標に、意欲を持って臨み、積極的に参加しましょう。 ・常に向上心を忘れず、自分なりに表現して伝えるための努力や工夫を惜しまないこと。 ・演奏発表やグループワーク、アンサンブルなど、何事にも果敢にチャレンジし体験することが大切です。 ・コンサートやライブはもちろん、他の芸術も含めた鑑賞など授業以外でも興味を持つことです。 ・わからないことがあったり、困ったときなど、遠慮無く質問してください。
授業を受けるに当たって守って欲しい事項
<ul style="list-style-type: none"> ・5つの約束を守りましょう。(遅刻・欠席・忘れ物をしない、提出物をきちんと出す、人に迷惑をかけない)※授業中に他の生徒の学習を著しく妨げる行為をした場合は評価を大幅に減点します。 ・学習用具(筆記用具・教科書・ミュージックノート・音楽通論・ファイル・プリント等)は毎時間必ず持参してください。 ・授業開始のチャイムが鳴り終わるまでに、音楽室の所定の座席に着席しててください。 ・楽器や用具は大切に丁寧に取り扱いましょう。もしも破損や故障した場合等は、速やかに申し出てください。